

今やヒグマも草食系

京大など解明

北海道に生息するヒグマの食生活が、現地開発が進んで以降、エゾシカやサケなど動物を中心としたものから、植物や果実中心に変化したことを京都大や北海道大などのチームが解明し、発表した。チームの松林順・京大大学院生(安定同位体生態学)は「開発に伴い、動物を捕獲する機会が減ったのではないか」と話している。

の環境に合わせて食性を変えられることが知られる。チームによると、北海道にはシカやサケがいるのに、現代のヒグマはフキやヤマブドウなど植物や果実中心の食生活を送っていることがこれまで報告されているが、詳しい理由は分かっていない。

研究では、博物館などに残っていたヒグマ約330体の骨を調査。食性によって変化する骨の成分を比較したところ、1930年代以降、それまでほぼ一定だ

開発進み動物捕獲減少か

った動物由来の成分である窒素や硫黄の割合が減り、植物由来の炭素成分の割合が大きくなっていった。30年代は北海道の開発が進んでいた時期で、ヒグマの食性に影響した可能性がある。

成果は英科学誌電子版に掲載された。チームは「ヒグマの行動範囲は広く、開発が北海道全体の生態系に与えた影響も調べられるかもしれない」としている。



海岸沿いでエサを探すヒグマ
北海道斜里町で、貝塚太一撮影